学園ニュース 富山大学 号外

発行　富山大学学生部　平成５年２月12日

平成５年２月５日

富山大学学生諸君へ

富山大学教育改革整備委員会

富山大学教育改革に伴う平成４年度以前入学者の教育課程等に関する措置について

すでに何度かお知らせしているように，富山大学では，平成５年４月から４年一貫教育に基づく新しい教育体制に移行するために，教養部廃止を含めた，教育課程及び組織制度の大幅な改革を実施する方向で，鋭意努力しております。その基本的な内容は，平成４年12月９日付けの学園ニュース号外で紹介したとおりです。富山大学教育改革整備委員会では，新教育課程の実施に向けての準備と並行して，平成４年度以前入学の学生諸君の教育課程等に関する対応措置を検討してきました。

本委員会では，

①入学時の規則に基づく教育課程を適用し，

②新教育課程への移行に伴う諸改革によって不利益を被ることがないように配慮すること

をその基本原則とし，以下のような措置をとることにいたしました。

１　学生の所属

従来は，一般教育課程履修中の学生の身分は，教養部に所属していましたが，平成５年３月末で教養部が廃止されるため，４月からはすべて当該学部に所属することになります。

２　一般教育課程の修了要件

平成４年度以前入学者には，原則

として入学時の規則が適用されますので，一般教育課程の修了要件は，56単位（経済学部夜間主コースは48単位）と何ら変更はありません。

3　一般教育課程の開講及び履修方法

平成４年度入学者の履修については，現行の1.5年間（夜間主コースは２年間）の一般教育課程を実施するために，平成５年９月（第３期）（夜間主コースは平成６年３月までの第３期，第４期）まで，原則として現行どおり開講しますので，入学時にお渡しした「履修のしおり」に基づいて履修してください。

平成５年４月以降に再履修（休学者も含む）する場合は，再履修者向けの特別開講授業科目（「教養部からのメッセージ」及び別表参照），又は従来の一般教育課程の授業科目に，対応する新教育課程の授業科目を履修することになります。特別開講授業科目を含む「平成５年度前学期（第３期）開設授業科目一覧」，「一般教育課程授業科目と新教育課程授業科目の対応表」は後掲（10ページ～19ページ）しておきます。なお，開講に当たっては，新教育課程の授業科目名と従来の一般教育課程の授業科目名を併記しますので，申告に際しては必ず一般教育課程の授業科目名を記入してください。

4　専門教育課程への移行

従来は，第３期（夜間主コースは第４期）修了時点で，体育実技１単位を除く一般教育課程の単位を完結（学部によっては－２単位まで可）していない場合は留年となり，専門教育課程に移行できませんでしたが，平成４年度以前入学者については，一般教育課程未完結者も含めたすべての学生が，平成５年10月の時点で専門教育課程に移行することになります。一般教育課程未完結者は，専門教育課程に在籍しながら一般教育課程の単位を履修することになります。なお，一般教育課程未完結者の専門教育課程の授業科目の履修等については，各学部で定め，助言指導に当たります。

各学部の学科・専攻・コースによっては，講座への分属，ゼミナールへの参加，特別研究（卒業論文等）などの時点で一般教育課程の単位を履

修しておくことなどを条件としているところもあります。この点については「各学部からのメッセージ」をよく読んでください。

5　一般教育課程の実施体制

平成5年4月からは，教養部が廃止されるために，一般教育課程の実施は，教養教育委員会が責任をもって当たります。単位認定については，各学部の教授会が行います。

6　助言教官，指導教官の取り扱い

従来，教養部の学生に対しては，教養部の助言教官が，学生諸君の修学及び学生生活に関する諸相談に応じてきましたが，平成5年3月末で教養部が廃止されるため，4月からは，それぞれが所属する学部の教官が助言，指導に当たります。助言教官，指導教官の体制については，各学部で定めます。

7　教務，厚生補導等に関する窓口

現在一般教育課程を履修している諸君の第3期の履修の窓口については，新設される企画室（現教養部事務室）となります。不明の点は担当係とよく相談してください。

また，奨学金や授業料免除などの厚生に関する事項や諸届け（休学願等），諸証明（各種証明書等）については，平成5年3月までは現在の教養部学生係が担当し，4月以降は諸君が所属する各学部の学務担当係となりますので，注意してください。

担当する窓口が分からない場合は，気軽に企画室や学部の学務担当係に相談してください。

以上，大学教育改革に伴う教養部廃止，新教育課程への移行という過渡期に直面する諸君のために，移行措置に対する総括的方策を立てましたが，諸君はぜひこの大学の意のある処を汲んで学業に励んでいただきたいと思います。

教養部からのメッセージ

教養部教務委員長　山　本　孝　一

このたびの教養部廃止に伴い，既に御承知のとおり，4月からは4年一貫教育に伴う新教育課程の新しい制度が導入されます。物事は何であれ長短両面ありますから今回の新制度も当然最善のものという訳ではなく，様々な懸案を抱えながらもより良い方向へ踏み出していくための最初のステップです。いずれにしても新課程で学ぶのは新1年生で，諸君は従来どおり一般教育課程で勉強するわけですから当面二つの制度が併存することとなります。そこでこの改革に臨んで教養部としてもっとも配慮したのは，図らずも教養部最後の学年となる諸君が移行に伴う混乱故に第3期の履修時において従来より不利な事態が生じないようにするという点でした。つまり諸君が教養部の学生として入学時に「履修のしおり」等で予告されたとおりの授業を安心して第3期まで，すなわち教養部廃止後も支障なく正規履修や再履修ができ，スムースに専門課程に移行できるようにすることです。

特に第3期に再履修する場合，従来第1期に開講される授業などから再履修していたものについては，今後は新教育課程のカリキュラムから対応科目を選んで履修するという方法が，しかし従来の経過からみてかなりの数の再履修者が予想される授業科目も多く，また必ずしも第3期中に必要な再履修科目に対応するものが新教育課程1期に開設されない事態も有り得るので，従来の教養部教官が中心になって諸君の履修のしおりに記載されている第3期開講授業科目以外に第1期，第2期にあるべき従来の授業科目をできるだけ沢山特別開講し諸君の再履修等に備えることといたしました。とはいえ，もとよりこのような措置は各期において必要単位をつつがなく修得する学生には全く不要であり，また特殊な事情を抱えた学生は別として，普通に勉学をしていれば修得可能なはずで，このような措置を講じなければならないのは本来残念ではあります。この際，是非勉学に励んで第2期までに必要な単位を修得し，今回の措置が事実上不要になることを期待します。紀元前三世紀頃のギリシャの哲学者クリュシッポスの言葉に「現在はその一部が将来，他が過去である」とあります。これは「現在を将来と過去との関連において把握し，現在を大切にする」（旺文社『成語林』）ことをすすめる言葉です。大学改革もまたこの流れの中で考えられなくてはなりませんが，当面，諸君にとっては第3期という「現在」が第2期までの「過去」に修得したものを生かし専門教育課程という「将来」に備えるための場として大切だということでしょう。

諸君は平成5年10月からすべて専門教育課程に移行するので，平成5年10月以降になお一般教育課程の単位が不足している場合，専門教育課程の授業をどれだけ受講できるかは今後各学部が諸君に示すことになります。また，すでに一年以上何らかの事情で一般教育課程に留年している諸君は今こそ自らの進路を考え，奮起して心機一転勉学に打ち込む機会とすべき時として，当広報をよく読み，必要ならば然るべき窓口で早めに履修相談することをお勧めします。「もし君が大きな才能の持ち主なら，勤勉は才能をさらに大きくするだろう」（イギリスの肖像画家レイノルズの言葉）という言葉がありますが，必ずしも「大きな才能の持ち主」でなくても勤勉は諸君の才能を開花させてくれますし，逆に勤勉を知らない才能は結局何物でもあり得ないでしょう。諸君のいわゆる「花の三期」が将来，より大きな才能の花を開くことの発端となるよう祈る次第です。

人文学部からのメッセージ

人文学部教務委員長　小　谷　仲　男

1　人文学部の教育改革の理念，目標

人文学部で取りあげる学問は，種々の学問分野のなかでも，とりわけ人間中心の内容のものです。たとえば宗教や哲学，歴史や文化人類学，言語や文学など。ひとつの学問が科学性を獲得するためには，ときには理論化や法則化が必要ですけれども，その内容が普遍的，抽象的になればなるほど人間離れがすすみ，人文系学問の本来の生命力を失ってしまう危険性があります。難しいことですが，人文学部の学問は人間の種々の営みや思想の具体的，特殊な性格をより尊重しながら，人間研究を遂行していくというところにその特色があります。

人文学部は時代と社会の変化に対応して，すでに「文化構造論」，「比較文学」といった新しい専攻分野（コース）を増設してきましたが，今回の改革においても，「心理学」，「社会学」，「フランス言語文化」の独立コースを設置し，さらに国際文化学科のなかに「比較社会論」コース，「日中文化関係論」ゼミ，「日ロ文化関係論」ゼミを新設することになっています。

2　平成4年度以前入学者の教育について

さて，現在教養部に所属している平成4年度以前入学者の諸君の場合，従来と全く変わりなく，入学時に定められている規則に従って，一般教育課程と専門教育課程の授業科目を履修することになっています。

以下その要点を掲げておきます。

(ア)　卒業要件について

各人の入学時に定められた卒業要件に従い，一般教育課程56単位，専門教育課程（人文学科，語学文学科とも）76単位以上，計136単位以上を修得する。

(イ)　専門教育課程移行は平成5年10月（前期終了時）におこなう。履修コースは現行の人文学科9コース，語学文学科7コースとし，学生諸君はそのいずれかに所属して平成5年10月以降（後期）に専門教育課程の授業を受ける。

（コース名）

人文学科	語学文学科
哲学	国語国文学
日本史学	朝鮮語朝鮮文学
東洋史学	中国語中国文学
西洋史学	英語英米文学
考古学	ドイツ語ドイツ文学
人文地理学	ロシア語ロシア文学
文化人類学	比較文学
言語学	
文化構造論	

コース決定までの手順

平成5年6，7月…コース志望に関するオリエンテーション（全体とコース別），併せて学生諸君の志望傾向を調査（第1回コース志望届）し，その結果を公表する（掲示）。

平成5年9月…コース志望届（最終回，第1〜第3志望コースまで記入）

平成5年10月初…コース別選考と調整，所属コース決定，掲示発表。

なお，一般教育課程未完結のままで各コースに所属した学生諸君は，一般教育科目等の履修が先決であるので，コースの指導教官の指示に従って，履修計画をたてること。

(ウ)　指導，助言教官について

履修コース所属までは（平成5年9月以前），人文学部の6名の学部補導委員の教官が指導，助言にあたる。

教育学部からのメッセージ

教育学部教務委員長　宇　井　啓　高

教育学部は戦後，義務教育教員養成大学として旧富山師範学校等の流れをくみ，多くの教員を富山県をはじめ他県にも送りだしてきた。その後，いろいろな社会情勢の変化に伴い，教育学部は教員養成ばかりではなく広い意味での総合教育によるゼネラリストの養成をめざして，昭和63年4月に，情報教育課程を発足させ，平成4年には第1回生を送りだした。

平成3年に検討のはじまった大学教育改善は，今年になって，いよいよ本決まりとなった。改革の主旨はすでに学園ニュース等で諸君は承知しているであろうが，戦後の大学教育の中でも初めての大改革であると言える。教育学部として他学部と異なる点を以下に述べ，混乱のないようにと願っている。なにぶんにも，初めてのことであり，諸君は先輩に尋ねることもできないであろうから，教育学部の学務係や指導教官に十分説明を受けていただきたい。

卒業要件について

現在教養部に在籍している諸君の所属は平成5年4月から教育学部となる。しかし，諸君には旧学則が適用されるので，残りの一般教育課程の単位は第3期で取らねばならない。

また，卒業要件として一般教育課程56単位，専門教育課程84単位，合計140単位の修得が必要である。

平成5年10月からは全ての学生が専門教育課程へ移行する。移行後の授業は新旧教育課程を同時に行なうことになる。旧教育課程の授業には新教育課程の授業を読み替えて行なう場合もあるので十分注意を払う必要がある。教育学部のカリキュラムは複雑であり，今後オリエンテーション等でも説明していきたい。変更はかなりあるので，掲示などを今まで以上に注意して見ることが大切である。

専門教育課程移行後の授業科目等の履修について

専門移行後，特別研究（卒業論文等）に入る条件については，基本的に現行の富山大学教育学部特別研究内規に従う。即ち，3年後期までに一般教育課程を54単位以上，専門教育科目を18単位以上修得した者が特別研究に入ることができるのである。

補導教官・助言教官等について

従来，補導教官や助言教官等の制度が第3期生に対してあったので，この制度をさらに充実させ，諸君一人ひとりの悩みや相談にきめ細かに対応していきたいと考えている。是非とも遠慮なく教官に接触していただきたい。諸君の助言教官等については4月の授業が始まるまでには学部として決める予定であり，学部としての説明会を開くことも考えている。

とくに気をつけてほしい点

今年4月に入学する1年生は，教養課程廃止によって，入学時から教育学部の所属となる。新一年生のうち，とくに小学校課程と情報教育課程の学生は平成5年10月から専攻教科・コース（国語，社会，数学，理科，音楽，図画工作，体育，家庭，教育学，教育心理学，教育情報コース，環境情報コース）に分かれての履修に入り，諸君が専門移行するのと同じ時期となる。10月からの時間割は新教育課程主体であるから，諸君は授業履修の計画を十分たてて臨んで欲しい。

経済学部からのメッセージ

経済学部教務委員長　小　原　久　治

[1] 今回の教育改革の目標と理念

富山大学経済学部は，古い歴史と伝統を誇る経済学部であり，これまで経済界だけでなく，各界に多数の優れた人材を輩出し，各界から高い評価を得ています。現在の経済学部は経済・経営・経営法の３学科と大学院経済学研究科修士課程を擁し，経済学部および大学院の教官スタッフも充実していますので，皆さんは専門教育課程において経済・経営・法学にわたって高度の専門的な勉強をすることができます。

今回の教育改革，すなわち，「４年一貫教育」の実施に当たって，経済学部では，社会科学の専門的知識の体系化を充実させるために，創意工夫をこらしたカリキュラムを作ることによって，実り多い成果を得んものと経済学部教育の完結性を図っています。

さらに経済学部では，次代を担う皆さんが，人間性豊かな個性を培い，複眼的なものの見方や考え方ができるよう指導し，人材形成に励み，皆さん自身の人格陶冶を触発していくことも目標としています。

したがって，「学問を通じて人間形成を図る」ことが，経済学部の教育理念であります。

[2] 平成４年度以前入学者の卒業要件

平成４年度以前に入学し，現在一般教育課程に所属している皆さんには，原則として，入学時の「学生便覧」掲載の規則が適用されますので，卒業要件や授業編成には変更ありません。

昼間主コースの卒業要件は，一般教育課程56単位，専門教育課程92単位，合計148単位の修得であり，夜間主コースの卒業要件は，一般教育課程48単位，専門教育課程76単位，合計124単位の修得です。

[3] 専門教育課程への移行

教養部の廃止にともない，昼間主コースの場合には第３期終了後の平成５年10月に，夜間主コースの場合には第４期終了後の平成６年４月に，一般教育課程の単位を未修得の学生（休学者を含む）も含めて全員が専門教育課程に移行することになりました。

したがって，移行後も一般教育課程の単位を修得しなければならない学生は，一般教育課程の授業を優先して不足単位を履修し，並行して専門教育課程の授業を受けることができます。

ただし，専門教育課程の３・４年対象の「演習」については，昼・夜間主コースとも，著しく未修得単位が多い場合には受講できません。この条件については早急に決定しますが，そのような処置が不必要になるよう，皆さんが勉励されて単位不足者がいなくなることを期待しています。

[4] 指導教官・助言教官制度について

教養部の廃止とともに，平成５年４月より皆さんは各学部に所属することとなります。そこで経済学部では，補導委員・教務委員が中心になって皆さんの指導・助言・相談に当たることになりました。もちろん，教務係・学生係などの事務職員も含めて相談に当たります。また，「演習」に参加すれば所属する演習教官が指導に当たります。

皆さんが履修上の疑問や就職相談や生活上の悩みなどを抱いたときには，積極的に先生方を訪問し，話しかけてください。

理学部からのメッセージ

理学部教務委員長　岡　部　俊　夫

1．理学部の教育改革の理念，目標

理学部は，自然界を律する最も基本的な原理や法則（および数理）を究める学問－理学－を教育・研究することを主眼に，数学科，物理学科，化学科，生物学科，地球科学科の5学科で構成されてきました。理学は，人類の文化を豊かにする上で重要な寄与をすると共に，先端技術開発の原動力として社会に大きく貢献してきましたが，近年，環境科学，情報科学，バイオサイエンス等の学際的分野にも柔軟に適応できる人材の育成が求められています。これらの社会的ニーズに応えるため，平成5年度からスタートする大学教育改革を機に，理学部では，生物圏環境科学科を新たに設け，併せて各学科を2大講座に改組し6学科編成とすることになります。また，理学部の教官スタッフも大幅な増員・充実がはかられることになります。

理学部では，従来から，一般教育課程で広い視野と教養を身につけ，専門教育課程でしっかりした基礎学力とそれに裏付けられた応用的・創造的能力等をもつ人材養成を教育目標にしてきました。学部専門教育は，各学科共，2・3年次（1年半）の学科専門教育と，4年次の講座に分属しての講座内少人数専門教育で行なわれています。平成5年度からは，この度の大学教育改革に基づく4年一貫教育の中で，教養教育と専門教育が行われることになりますが，理学部の理念と目標は，平成5年度以降もうけつがれます。同時に，新しい具体的ありかたとして，従来の“後継研究者養成型教育”から広く“研究・開発能力を備えた職業人養成型教育”へと社会的要請に応え得る人材養成を目指すことになります。

2．平成4年度以前入学者の教育について

平成4年度以前に入学したみなさんには，入学時の規則，内規が適用されますので，卒業要件やカリキュラムは全く変更ありません。

1）卒業要件

したがって，理学部の場合，卒業に必要な単位数は，一般教育科目36単位以上，外国語科目16単位以上，保健体育科目4単位以上，そして，専門教育科目76単位以上，合計132単位以上の修得が必要です。成績評価についても，従来どおりで，変更はありません。

2）専門課程移行

従来，理学部では1年半の一般教育課程を完結することを専門教育課程移行の条件としてきましたが，新教育課程への移行期の特別措置として，一般教育課程の修得単位が55単位未満（保健体育実技1単位は専門教育課程で履修）の未完結者についても，平成5年度後期に専門教育課程への移行を認めることにしました。未完結者も，10月から専門教育課程の授業科目を履修できますが，一般教育課程の単位をできる限り早く完結するように，履修計画をたててください。4年次には，講座に分属して卒業研究に入ります。ほとんどの学科で4年進級の条件を設けていますので，3年次までに，基礎的な授業科目を履修し終える必要があります。

3）指導教官，助言教官制度

理学部2・3年次の学生に対しては，学科ごとに助言教官を設け，学生諸君の修学や学生生活に関する相談に応じられる体制をとります。助言教官は4月までには決まりますので，悩みや相談があれば，遠慮なく助言教官を訪ね相談してください。また，4年次には，講座に分属して指導教官の下で卒論研究（講究）に入ります。少人数での教育・研究が行われ，教官あるいは大学院生との親密な人間関係も生まれますので，気軽に相談を持ちかけることができます。

工学部からのメッセージ

工学部教務委員長　塩　澤　和　章

技術革新が日進月歩の現代において社会の多様な方面で活躍しうる工学技術者が要請されてきており，工学部においてはこれまでにも種々の改善を行いつつ，より良い工学教育を策定し実行してきました。

工学教育の基本は工学的素養をもった優秀な技術者の要請であり，問題解決能力を有し，創造性・独創性豊かな技術者の育成であると考えています。その為には学問的パラダイムを有する大学教育が必要であり，工学的知識を修得するのみではなく，豊かな人間性を培うために幅広い知識の修得も要求されます。今回の教育改革，すなわち4年一貫教育は，人文・社会系の学問と工学を有機的に統合・総合化し，個性的な工学教育カリキュラムを設定して実施しようとするものです。

この度の大学教育改革を通じて工学部では修士講座の増設と整備を行い，教育及び研究の一層の充実に努力しています。具体的には機械システム工学科に機械情報システム工学講座，物質工学科に材料物性工学講座が増設されてそれぞれ5講座編成となり，また化学生物工学科は生物反応化学講座の整備が行われます。なお，工学部では学部教育の完結性と，更には大学院教育との整合性を検討し，高度な技術者の養成のために従来の修士課程を発展させて博士課程（前期，後期）を新設すべく努力中です。

さて，現在教養部に所属している平成4年度以前入学の皆さんの卒業要件やカリキュラムは，これまでと変わることはなく心配することは全くありません。工学部ではこれまでどおり一般教育課程の56単位，専門教育課程の84単位の合計140単位以上を修得することが卒業要件です。平成5年10月以降（専門教育課程移行後）の工学部専門教育課程の授業科目は，学生便覧に記載のとおり開講されます。したがって，一般教育課程第3期（平成5年度前期）でしっかり勉強され，一般教育課程の55単位（保健体育実技1単位は専門教育課程で履修）を完結するよう希望しています。

何らかの事情で一般教育課程の単位を完結できなかった皆さん（一般教育課程未完結者）に対しても専門教育課程の授業科目の履修ができるような体制をとるよう現在各学科で検討中であり，緩やかな4年一貫教育を実施する予定です。したがって，皆さんが不利になることはありません。しかし，専門教育課程移行後の一定期間内に一般教育課程の単位を完結しないと学年進級が制限されることがあります。また，工学部の授業では1つの科目を受講するためにはいくつかの関連科目の修得が必要であり，修得時期や順序といったそれぞれの科目間の結び付きを考える必要性から受講可能な授業科目が制限されることもあることをご理解ください。移行後に各学科で開催予定のオリエンテーションによって確認してください。

皆さんは平成5年4月より工学部所属の学生となりますから，工学部の教職員から今まで以上に密接な教育面および生活面の指導・助言を受けることが可能となります。皆さんの履修上の疑問や相談については各学科の教務委員並びに補導委員の先生方が当たる体制ができていますので，気軽に教官室を訪ねてください。これら先生方の名前と研究室は学務係にお問い合わせください。

以下の各表は平成５年２月５日現在で確定しているもので，最終的な表は４月に一般教育課程第３期の授業時間割とともに発表いたします。

平成５年度前学期（第３期）開設授業科目一覧

① 「週当り正規開講授業数」とは，平成４年度入学生用「履修のしおり」で第３期授業科目としてあげられている授業科目の週当り授業数です。
② 「週当り特別開講授業数」とは，特に再履修用に第３期に開講される授業科目の週当り授業数です。
③ 再履修の場合は，主に特別開講の授業で履修しますが，新教育課程の授業科目で履修することができるものもあります。

［平成５年２月５日現在］

	分野	学科目	授業科目	週当り正規開講授業数	週当り特別開講授業数	履修条件等
一般教育科目	人文	哲学	哲学Ⅰ		1	
			哲学Ⅱ	1		「哲学Ⅰ」２単位以上修得済みであることを要する。
			論理学	1		
		倫理学	倫理学		1	
		心理学	心理学		1	
			心理学演習	2		「心理学」２単位以上修得済みであることが望ましい。
		歴史学	日本史		1	
			東洋史		1	
			西洋史			新教育課程授業科目で履修「西洋の歴史と社会」
		文学	文学		2	
	社会	法学	法学			新教育課程授業科目で履修「市民生活と法」
			日本国憲法	2		人，理，工対象
		経済学	経済学	1		人，教は第１・２期又は第２・３期で履修
		統計学	統計学		1	
		政治学	政治学	1		第１～３期のいずれかの２期間で履修
		地理学	地理学	1		第１～３期のいずれかの２期間で履修
		社会学	社会学		1	
	自然	数学	数学			新教育課程授業科目で履修 ［（人，教，経対象）「自然と数理」，〈数学Ｂ分〉専門基礎科目「経営基礎数学」］ ［（理，工対象）専門基礎科目「未定」］
			応用数学	5		「Ｃ」（理，工対象）４，「ＭＣ」（理，数対象）１
		物理学	物理学		1	（特）理，工対象　新教育課程授業科目で履修（人，教，経対象）「物質の構造」
			物理学実験	3		教，理，工対象
		化学	化学		1	新教育課程授業科目で履修（工・化生対象）専門基礎科目「有機化学第１」
			化学実験	3		
		生物学	生物学		2	（特）経対象１，理，工対象１
			生物学実験	2		

	分野	学科目	授業科目	週当り正規開講授業数	週当り特別開講授業数	履修条件等
一般教育科目	自然	地学	地学		2	
			天文学	2		
			地学実験	1		第2期又は第3期で履修
	総合	環境科学	社会環境論Ⅱ	1		理，工対象
			自然環境論Ⅱ	1		
			現代社会論	1		
			富山の自然	1		
			情報と科学			新教育課程授業科目で履修「コンピュータの話」1，「情報処理」25
			人権と差別	1		
			地球環境論	1		
	教養ゼミナール（哲学）					新教育課程授業科目で履修「哲学のすすめ演習」
	教養ゼミナール（西洋倫理思想史）					新教育課程授業科目で履修「未定」
	教養ゼミナール（漢文資料講読）					新教育課程授業科目で履修「教養原論演習（漢文入門）」
	教養ゼミナール（東洋史）					
	教養ゼミナール（国際関係論）			1		
	教養ゼミナール（地球科学）			1		
	教養ゼミナール（中級ドイツ語講読）			1		
	教養ゼミナール（時事ドイツ語）			1		
	教養ゼミナール（ドイツ語口頭練習）			1		
	自然保護論コロキアム			1		
外国語科目		英語	英語	27		再履修は原則として第2期，第3期における2単位ものを落した学生に限るが，1単位ものを落した学生の再履修も認め，単位の読み替えを行う。
			英会話	1		
		ドイツ語	ドイツ語	20	6	「DL$_3$」20，（特）「DS」（G$_2$，L$_2$a，L$_2$bの再履修用）6
			ドイツ語会話	1		
		フランス語	フランス語	2		
		中国語	中国語	8		
		ラテン語	ラテン語	1		
			ロシア語	4		
			朝鮮語	1		
保健体育科目		保健体育	体育実技	28.5＋16／30		専門教育課程開講分28.5＋16／30（3年度入学生5期分） 〔平成5年度後期22.5（4年度入学生4期分），平成6年度前期28.5（4年度入学生5期分）〕
日本語及び日本事情に関する科目		日本語・日本事情	日本語	1		（特）2期分で単位を取れない学生があれば，再履修用を開講する。
			日本事情	1		

※（特）は「特別開講」を表わす。

一般教育課程授業科目と新

① 新教育課程の授業科目は，表中の○印の付された期に開講されます。

② 履修条件等は，平成６年度以降は変わることがあります。

③ 平成６年度以降の入学生対象の授業実施計画は，その都度決定されます。

	分野	一般教育課程学科目，授業科目		新教育課程の主題，授業科目	
		学科目	授業科目	主題	授業科目
一般教育科目	人文	哲学	哲学Ⅰ	思想と倫理	哲学のすすめ
			哲学Ⅱ		
			論理学		
		倫理学	倫理学	思想と倫理	人間と倫理
		心理学	心理学	心理と教育	こころの科学
					教育と社会
			心理学演習		
		歴史学	日本史	歴史の世界	日本の歴史と社会
			東洋史	歴史の世界	東洋の歴史と社会
			西洋史	歴史の世界	西洋の歴史と社会
		文学	文学	文学の世界	日本文学
					外国文学
		音楽	音楽	芸術の世界	音楽
		美術	美術	芸術の世界	美術
	社会	法学	法学	法と政治	国家と政治
					経済生活と法
					市民生活と法
			日本国憲法	法と政治	日本国憲法
		経済学	経済学	社会理論と現代	社会科学の方法と理論
					現代社会論Ⅱ
				産業と経済	経済・経営データを読む
					企業と仕事
					世界経済の過去と現在
					日本の経済と産業
					日本の企業経営
				地域と生活	富山の経済と社会
		統計学	統計学	産業と経済	経済・経営データを読む
		政治学	政治学	社会理論と現代	現代社会論Ⅱ
				法と政治	国家と政治
		地理学	地理学	地域と生活	地域の社会と文化
					富山の経済と社会
		社会学	社会学	社会理論と現代	社会科学の方法と理論
					現代社会論Ⅰ
					現代社会論Ⅱ
	自然	数学	数学	数理の世界	自然と数理
					社会と数理
					情報と数理
					経営基礎数学［経済学部専門基礎科目］
			微分積分 線形代数 応用数学		
		物理学	物理学	自然の構造	物質の構造
					量子の世界
					力学Ⅰ［理学部専門科目］
					物理学概論Ⅰ［理学部専門基礎科目］
					物理学［工学部専門基礎科目］
			物理学実験		
		化学	化学	自然の構造	化学物質の世界
					未定
			化学実験		

教育課程授業科目の対応表

［平成５年２月５日現在］

平成５年度入学生対象開講時期						履修条件等
５年度前	５年度後	６年度前	６年度後	７年度前	７年度後	
○	○	○		○		
○	○		○			
○	○	○	○			２単位修得する場合は，どちらでも可。
		○	○			４単位修得する場合は，各２単位とする。
○	○	○	○	○		同一教官で４単位修得する場合は，事前に可否を問うことが望ましい。
○	○	○				同一教官で４単位修得する場合は，事前に可否を問うことが望ましい。
○	○	○				同一教官で４単位修得する場合は，事前に可否を問うことが望ましい。
○	○	○	○			
○	○					
		○	○			［再履修不可］
		○	○			［再履修不可］
			○			「駒城」担当分のみ履修可
		○				
○						
	○	○				
	○	○	○			「浅見」，「坂口」担当分のみ履修可
○		○				「小倉」，「松井暁」担当分のみ履修可
○	○		○	○		
○	○		○	○		
○	○	○		○		
○	○	○	○	○		
○	○	○	○	○		
○	○					
○	○		○	○		
○		○				
			○			
		○	○			
○	○					
	○	○	○			
○	○	○				
○		○				
○	○		○			人，教，経対象
		○				
	○					
						人，教，経対象（数学Ｂとしてのみ履修可）
						理，工対象［専門基礎又は専門教育課程の数学に関する科目を履修］ 理(数) MA_1－解析学序論Ⅰ，MA_2－解析学序論Ⅱ，B_1－線形代数学Ⅰ，B_2－線形代数学Ⅰ演習 理(物 化 生 地) A_1－微分積分学Ⅰ，A_2－微分積分学Ⅱ，B_1－線形代数学，B_2－応用数学基礎 工(電 機 物) A_1－微分積分Ⅰ，A_2－微分積分Ⅱ，B_1－線形代数Ⅰ，B_2－線形代数Ⅱ 工(化) A_1－微分積分Ⅰ，A_2－微分積分Ⅱ，B_1－線形代数 B_2－線形代数Ⅱ (機 物対象)
○	○	○				人，教，経対象
		○		○		
						理（物）対象
						理（数・化・生・地）対象
						工対象
○	○	○		○		人，教，経対象　２単位修得者のみ
						理，工対象［専門基礎又は専門教育課程の化学に関する科目を履修］

	分野	一般教育課程学科目，授業科目		新教育課程の主題，授業科目	
		学科目	授業科目	主題	授業科目
一般教育科目	自然	生物学	生物学	生命の世界	生命のしくみ
					生命と環境
			生物学実験		
		地学	地学	地球と環境	地球の構造と活動
					地球の環境
			天文学	自然の構造	宇宙の構造
			地学実験		
	総合	環境科学	社会環境論Ⅰ		
			社会環境論Ⅱ		
			自然環境論Ⅰ		
			自然環境論Ⅱ		
			現代社会論	社会理論と現代	現代社会論Ⅰ
					現代社会論Ⅱ
			富山の自然		
			情報と科学	情報の科学	コンピュータの話
					情報処理
			自然と文化		
			人権と差別		人権と差別
			地球環境論		
	教養ゼミナール			教養原論演習（中国語ヒアリング）	
				教養原論演習（漢文入門）	
				教養原論演習（現代社会と価値論）	
				教養原論演習（環境モニタリング）	
				教養原論演習（叙事詩の人間観）	
				教養原論演習（国際関係論）	
				教養原論演習（連句実作）	
	コロキアム			コロキアム（都市空間を読む）	
				コロキアム（ネットワーキングコミュニケーション）	
				コロキアム（自然保護論コロキアム）	
				コロキアム（ドイツ語口頭練習）	
				コロキアム（女性学コロキアム）	
外国語科目		英語	英語		英語
			英会話		
		ドイツ語	ドイツ語		ドイツ語
			ドイツ語会話		
		フランス語	フランス語		フランス語
		中国語	中国語		中国語
		ラテン語	ラテン語		ラテン語
			ロシア語		ロシア語
			朝鮮語		朝鮮語
保健体育科目		保健体育	体育講義		健康・スポーツ論
			保健講義		
			体育実技		
日本語及び日本事情に関する科目		日本語・日本事情	日本語		日本語
			日本事情		日本事情

平成5年度入学生対象開講時期						履修条件等
5年度前	5年度後	6年度前	6年度後	7年度前	7年度後	
○	○	○				
○			○	○		(旧)生物「横畑」を履修済みの者は，不可。
○	○					
		○	○			
		※○		※○		※隔年開講
○	○	○				
○		○				
○	○					
○	○					
						開講未定
	○					
○						
○	○					
○	○					通年で履修することが望ましい。
○	○	○	○	○		
○	○	○	○	○		
○	○	○	○	○		
○	○					
○						
○	○	○	○	○		
○	○					
○	○					
○	○	○	○			(旧)1単位もの，2単位ものがあるが，(新)1単位もので履修。
○	○	○	○			(旧)1単位もの，2単位ものがあるが，(新)1単位もので履修。 G_1，L_1→(新)1期，G_2，L_2a，L_2b→(新)2期，L_3→(新)3・4期
○	○	○	○			(旧)1単位もの，2単位ものがあるが，(新)1単位もので履修。 (旧)1期→(新)1・2・3・4期，(旧)2期→(新)2・3・4期，(旧)3期→(新)3・4期
○	○	○	○			
		○	○			
○	○	○	○			(旧)1単位もの，2単位ものがあるが，(新)1単位もので履修。 (旧)1期→(新)1期，(旧)2期→(新)2期，(旧)3期→(新)3・4期 ただし，各学部の専門教育課程への進級条件の緩和がなければ， (旧)2期・3期分についても，(新)1期分での履修を可とする。
○	○	○	○			
	○	○	○			体育講義と保健講義の両方必要な場合は，異なる教官。
						[履修不可] [専門開講分]45時間，1単位を履修すること。
○	○	○	○			(旧)1単位もの，2単位ものがあるが，(新)1単位もので履修。 (旧)1期→(新)1・2・3・4期，(旧)2期→(新)2・3・4期，(旧)3期→(新)3・4期
		○	○	○		

※(旧)は「現行の教育課程」，(新)は「新教育課程」を表わす。

平成５年度開設授業科目一覧

	分野	学科目	授業科目	週当り正規開講授業数		週当り新教育課程授業科目開講授業数	
				第３期	第４期	５年度前	５年度後
一般教育科目	人文	哲学	哲学			1	
		倫理学	倫理学				
		心理学	心理学				
		歴史学	歴史学				
		文学	文学	1	1		
	社会	法学	法学			1	
						1	
		経済学	経済学				1
							1
		統計学	統計学				
		政治学	政治学			1	
		地理学	地理学	1	1		
		社会学	社会学				
	自然	数学	数学				
		物理学	物理学	1	1		
		化学	化学	1	1		
		生物学	生物学	1	1		
		地学	地学	1	1		
	総合	環境科学	環境科学		1		
外国語科目		英語	英語	2	1		
		ドイツ語	ドイツ語	1			
		フランス語	フランス語				
		中国語	中国語	1			
保健体育科目		保健体育	体育講義		1		
			保健講義		1		
			体育実技				

（注）「週当り正規開講授業数」とは，平成４年度入学生用「履修のしおり」で第３期，第４期授業

（経済学部夜間主コース）

［平成５年２月５日現在］

履　　修　　条　　件　　等
新教育課程授業科目で履修「哲学のすすめ」（永井）
新教育課程授業科目で履修「日本の歴史と社会」（担当及び開講時期未定）
新教育課程授業科目で履修「国家と政治」（大藪）
新教育課程授業科目で履修「経済生活と法」（萩野，岩崎他）
新教育課程授業科目で履修「日本の経済と産業」（芳賀）
新教育課程授業科目で履修「日本の企業経営」（担当未定）
新教育課程授業科目で履修「国家と政治」（大藪）
（ドイツ語及び中国語について，再履修が必要な場合には特別に開講することがある。）
（履修が必要な場合には開講することがある。）
専門教育課程分第５期開講（河野）

科目としてあげられている授業科目の週当り授業数です。

一般教育課程授業科目と新教育課程授業

① 新教育課程の授業科目は，表中の〇印の付された期に開講されます。
② 履修条件等は，平成６年度以降は変わることがあります。
③ 平成６年度以降の入学生対象の授業実施計画は，その都度決定されます。

	分野	一般教育課程学科目，授業科目		新教育課程の主題，授業科目	
		学科目	授業科目	主題	授業科目
一般教育科目	人文	哲学	哲学	思想と倫理	哲学のすすめ
		倫理学	倫理学		
		心理学	心理学		
		歴史学	歴史学	歴史の世界	日本の歴史と社会
		文学	文学	文学の世界	日本文学
	社会	法学	法学	法と政治	国家と政治
					経済生活と法
		経済学	経済学	産業と経済	日本の経済と産業
					日本の企業経営
		統計学	統計学		
		政治学	政治学	法と政治	国家と政治
		地理学	地理学		
		社会学	社会学		
	自然	数学	数学		
		物理学	物理学	自然の構造	物質の構造
					量子の世界
		化学	化学	自然の構造	化学物質の世界
		生物学	生物学	生命の世界	生命と環境
		地学	地学	地球と環境	地球の構造と活動
					地球の環境
	総合	環境科学	環境科学		
外国語科目		英語	英語		英語
		ドイツ語	ドイツ語		
		フランス語	フランス語		
		中国語	中国語		
保健体育科目		保健体育	体育講義		
			保健講義		
			体育実技		

科目の対応表（経済学部夜間主コース）

［平成5年2月5日現在］

平成5年度入学生対象開講時期		履修条件等
5年度前	5年度後	
○		
		（新）開講時期未定
	○	
○		
○		
	○	
	○	
○		
○		
	○	
○	○	
○	○	
	○	
○		
○	○	（旧）1単位もの，2単位ものがあるが，（新）1単位もので履修。
		［履修不可］［専門開講分］45時間，1単位を履修すること。

※（旧）は「現行の教育課程」，（新）は「新教育課程」を表わす。